

磐前村印

考古学者は、12世紀にさかのぼる井戸の内側からこの印章を発掘しました。印章はいくつかの磁器と一緒に布で包まれていました。これらは、井戸の使用を終了する儀式における供物であった可能性もありますが、これは確認されていません。奥州藤原氏の支配下にあった平泉の政治・行政の中心地である柳之御所地区で発見されました。

印章には「磐前村（いわさきむら）印」という名前が刻まれています。この文字を別の読み方をすると、村の名前は「いわがさき」とも読めます。この村の正確な場所はわかっていないが、平泉の北にあったものと思われます。奥州藤原氏は、支配下の地域の村の指導者に対して、その権威の認知および承認のしるしとして、このような印章を授与しました。この印章は、公式の文書に押印するためには使われなかった可能性が高いです。というのも、当時はほとんどの村人は文字を読むことができず、指導者は口頭で指示を出していただろうからです。多くの情報がまだ未確認だが、この印章は、当時の政治的な状況や、都市構造の発見の様子の一端をうかがい知ることができる貴重なものです。